

小児科学		講義	教授 加藤 政彦
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13361203

1. 授業のねらい・概要

小児期は、出生直後の新生児期から成人への移行期である思春期までを指す。成人と異なる小児の特徴を学び、救急救命士が臨床の現場で注意を払うべき症状・所見や各種検査、処置・治療、および各疾患の病態を理解する。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 小児の疾病①（先天異常）	9. 小児の疾病⑨（免疫・アレルギー）
2. 小児の疾病②（出生前診断）	10. 小児の疾病⑩（感染症）
3. 小児の疾病③（新生児）	11. 小児の疾病⑪（神経・筋）
4. 小児の疾病④（代謝・内分泌）	12. 小児の疾病⑫（事故）
5. 小児の疾病⑤（呼吸器・循環器）	13. 小児の疾病⑬（虐待）
6. 小児の疾病⑥（消化器）	14. 小児の疾病⑭（救急）
7. 小児の疾病⑦（腎・泌尿器）	15. 小児の疾病⑮（予防医学）
8. 小児の疾病⑧（血液・腫瘍）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践、解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

救急救命士として必要な小児科学の知識を修得する。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：外間登美子編，小児科学 改訂3版，中外医学社，2005年

参考文献：細野茂春監修，NCPR 新生児蘇生法テキスト第4版，メジカルビュー社，2021年

小関一英編，2023年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集，晴れ書房，2022年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。